



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選ばれました」聖書(第1コリント書1章27節)

牧師 河合裕志

神の選びは真に不思議。普通であれば、知恵ある者、力ある者、家柄のよい者、地位のある者が選ばれる。こうした人々が招かれる、歓迎される。好ましいと思う。おメガネにかなう。私達もそうした者でありたいと願う。

ところが神の選びは真逆。無学な者、無力な者、世の無に等しい者、身分の卑しい者、見下げられている者が選ばれる。これは不可解。どうして、どうして。そのような者は好ましくない。そうした者にはなりたくない。このエコヒイキぶり。とてもついていけない。

ところがこれがコリント教会の現実だった。そのほとんど多くの者は無学・無力な者だった。当時は奴隷制の社会。ローマ帝国内で6千万人の奴隷がいたという。こうした人々が教会に次々と入って来た。そしてキリスト信仰に導かれ生きる希望と力を与えられた。彼らは神の選びに与ったということになる。

こうした現象についてパウロは「神は知恵ある者に恥をかかせるため」、「力ある者に恥をかかせるため」といった視点を提供。なるほど、そういう見方もできるか。知恵

ある者、力ある者はそうでない者を見下げ、馬鹿にしていた。しかしそうした人々は救いを取り逃がしてしまった。気がつけば下等の連中が喜んで生きている。彼らの方が上等の生を味わっている。これは赤面の至り。

それからパウロはこの現象について更に「それは、だれ一人、神の前で誇ることがないようにするためです」と言った。これが実は一番のねらい。もし有力者を神が選んだとしたら彼は自らの力を誇りかねない。自分は価値があるので神は私を選んだ、と神は言われなくなかった。そこで神は誇るべきものを持たない人々に向かった。

そしてパウロは最後にこう言う。「誇る者は主を誇れ」。誇るということであれば、得意がる、自慢するということなら、主をこそ誇れ、と。主は神であり、またキリストのこと。自分のような無力な者を選んでくれた神を誇る。

そして罪の深い私のために、赦しと永遠の命をもたらすために十字架に死んでくれたキリストを誇る、感謝を捧げる。キリストも実は生前、周りに漁師や取税人や罪人を特に選び集めていた。「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである」(マルコ2・17)と。誠に有難く感謝なこと。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時